

野球部の全裸シゴキ、眺める女子たち

春の陽気が漂う放課後、高校の野球部グラウンドは静けさに包まれていた。桜の花びらが舞い散る中、野球部の部員たちはグラウンドの中央に整列していた。昨日、地区大会の初戦で大敗を喫したチームは、監督の怒りを買っていた。監督の山本鉄平は、50歳を過ぎた厳格な指導者で、野球に対する情熱は誰よりも熱かったが、その指導方法は時に過激とも言えるものだった。

試合の敗因は多岐にわたった。先発ピッチャーの鈴木健太は初回到コントロールを乱し、3者連続四球で満塁のピンチを招いた。続くバッターに満塁ホームランを打たれ、一気に4失点。野手の山田太郎はライトフライを落とし、佐藤

次郎はショートからの送球をミスしてランナーを進めてしまった。打撃陣も振るわず、9回裏の最終打席で田中翔太が三振を喫し、試合を締めくくってしまった。部員たちは全員が責任を感じ、グラウンドに集められたとき、誰もが下を向いていた。

山本監督は部員たちを鋭い視線で見渡し、声を張り上げた。「お前ら、昨日の試合は何だったんだ？ 守備はガタガタ、打撃はまるで素人だ！ ピッチャーはコントロールが定まらず、野手はボールを落とす始末！ こんなんで甲子園に行けると思ってるのはか？」監督の声はグラウンド中に響き渡り、部員たちの耳に突き刺さった。鈴木健太は汗が額を伝うのを感じながら黙っていた。山田太郎は隣の佐藤次郎に小声で「監督、めっちゃ怒ってる……どうすんだよ」と囁き、佐藤次郎

は「俺たちのせいだろ……仕方ねえよ」と答えた。

監督はさらに続けた。「お前らには根性が足りん！野球は技術だけじゃない。精神力がものを言うんだ！だから、今日から特別なシゴキを導入する。全員、全裸で練習だ！」その言葉に、部員たちは一瞬凍りついた。山田太郎は目を丸くして「全裸って……マジかよ？何だよそれ、意味わかんねえよ！」と声を上げ、佐藤次郎も顔を赤らめ、「何でこんなことすんだよ……恥ずかしすぎるだろ」と呟いた。田中翔太は後ろで「全裸って、冗談だろ？監督、頭おかしくなったんじゃないの？」と笑いものにしようとしたが、監督の視線が彼を貫き、すぐに黙り込んだ。

「何だその態度は！文句があるなら今すぐ辞めろ！野球を舐めるな！」山本監

督の怒声が響き、部員たちは再び静まり返った。鈴木健太はキャプテンとして部員たちをまとめなければならなかったが、彼自身も困惑していた。「監督、これは本当に必要なんですか？全裸で練習なんて……」と恐る恐る尋ねると、監督は冷ややかな視線を向けた。「必要だ！お前らは自分たちの弱さに向き合えてない。羞恥心を乗り越え、仲間と共に戦う精神を鍛えるんだ！今すぐユニフォームを脱げ！全員だ！」

部員たちは互いに顔を見合わせ、渋々ユニフォームを脱ぎ始めた。グラウンド脇のベンチでは、女子マネージャーの田中美咲と高橋玲奈がその様子を見守っていた。田中美咲はショートカットの髪を耳にかけ、目を輝かせながら「ねえ、玲奈！何！？全裸！？何！？何！？何！？ちょっと何！？」と興奮気

味に話しかけた。高橋玲奈は冷静な表情を保ちながらも、「監督、頭おかしいんじゃない？」と呟き、興味深そうにグラウンドを見つめた。

教室の窓からは、女子生徒の小林彩花と松本優香が友達数人と一緒に覗いていた。小林彩花は「え、何！？何！？何！？全裸！？マジで！？何！？何！？何！？」と驚きの声を上げ、松本優香は「監督、何考えてるの……？でも、ちょっと楽しみかも」と頬を赤らめた。